

トリサシダニ

特徴と生態

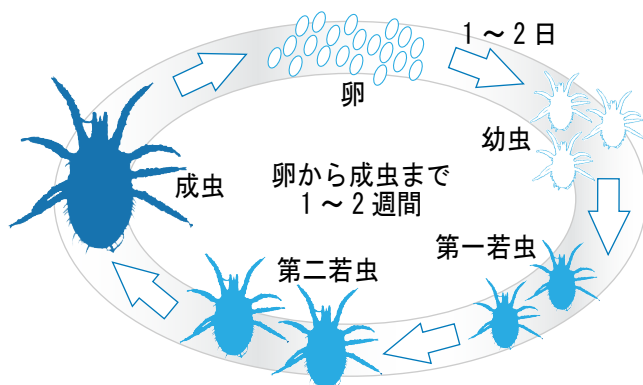


- 体長…成虫：0.5 ～ 0.6 mm
- 体色…成虫：赤褐色
- イエダニと同属の近縁種でよく似ていますが、背板がイエダニよりも幅広く、吸血性です。成虫はほとんど宿主の体に付着しており、吸血しなくても2～3週間は生存可能です。メスは卵を宿主の体表に産み付け、その数は一生に100個と言われています。卵は1～2日後に孵化し、1～2週間で成虫になります。

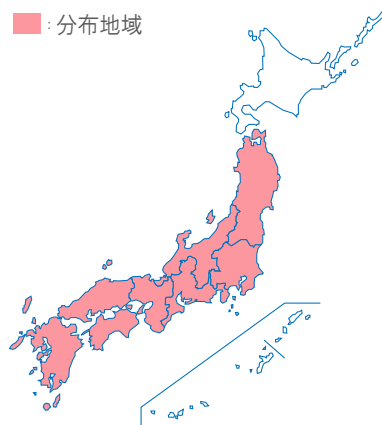
分布と発生場所

- 全世界の温帯地方に分布し、ニワトリや野鳥に寄生して吸血します。ムクドリなどの野鳥の巣からも多く採取されます。

● サイクル図



● 分布図



● 発生時期



被害

- 家屋に接して作られた鳥の巣にダニが大発生した後、その鳥が巣を捨てたり、死んだりすると、ダニの吸血源がなくなります。吸血場所を探すダニが家屋内に侵入した場合、ヒトが吸血被害に遭うことがあります。春から夏の特に関夜に被害が多く、刺されると、イエダニと同様に痒感の強い小発赤があちこちに見られます。ビル内に発生する事例は少ないですが、換気口周辺に野鳥が営巣した後、ビル内にダニが入り込んで被害が出た事例があります。また、鶏舎で大発生することもあります。

駆除

- 家屋の屋根裏や軒などに営巣した野鳥の巣が原因である場合、これらを除去して焼却するとともに、殺虫剤を散布することが必要です。野鳥には、同じ場所に繰り返し営巣する習性がありますので、撤去後、再営巣されないよう、処理することも必要となります。また、鶏舎で発生した場合、ニワトリの体上（特に肛門付近や頭部）に寄生していたり、柱や板の割れ目に潜んでいるため、舎内に薬剤散布する他、ニワトリの体表に直接噴霧また散粉することも必要です。